

新アリーナを核とした

まちづくり基本計画 2019-2023

2019年3月

豊橋市

目 次

1	計画策定の趣旨	1
(1)	スポーツを取り巻く環境	1
(2)	本市の現状と課題	5
(3)	新アリーナ整備の検討経緯	8
(4)	新アリーナを核としたまちづくりの必要性	8
(5)	計画策定の目的	9
2	計画の位置付け	10
3	計画期間	10
4	基本理念	11
5	基本方針	12
(1)	スポーツを「する」・「観る」環境の整備	13
(2)	スポーツを「支える」人づくり	15
(3)	地域経済の活性化とまちなかのにぎわい創出	17
6	豊橋公園内の施設等の整備・再配置について	20
(1)	整備・再配置の基本的な考え方	20
(2)	豊橋公園内の施設の整備・再配置	21
(3)	サブアリーナについて	23
(4)	防災活動拠点について	23
7	新アリーナ興行開催時の動線計画	24
(1)	交通手段別来場者予測	24
(2)	歩行者動線計画	25
8	新アリーナによる経済効果の想定	28
(1)	経済効果について	28
(2)	経済波及効果の試算結果	29
(3)	与件データの設定	30
	資料編	32

1 計画策定の趣旨

(1) スポーツを取り巻く環境

ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックが連続して開催される、いわゆる「ゴールデン・スポーツイヤーズ^{※1}」を控え、スポーツに対する関心は益々高まりを見せています。

日本におけるスポーツは教育的側面に重点が置かれた「体育」として発展してきましたが、近年はスポーツの教育的側面だけでなく社会的、経済的側面が注目されており、それらの機能をまちづくりに活かしていく流れが生まれています。

スポーツは地域や人種、宗教を超えた世界共通の言語であり、そのマーケットは経済のグローバル化とともに拡大を続けています^{※2}。

日本国内においても、政府が成長戦略である日本再興戦略2016^{※3}において、スポーツを成長産業と位置付け、その効果を地域の活性化に活用していく方向性を示しています。そして、スポーツのインフラであるスタジアム・アリーナ^{※4}は施設内での経済効果のみならず、周辺地域の飲食、宿泊、観光等に影響を与える地域活性化の核となる施設としています。

また、スタジアム・アリーナを中心市街地内に設置した場合、世代を超えて多くの住民が交流できる空間を生み出すことができ、人口の集積やコミュニティとしての一体感を生み出すことが可能になるとされており、コンパクトシティを実現するためにスポーツを活用することが提案されています。



※1 ゴールデン・スポーツイヤーズ

日本では、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、そして2021年の関西ワールドマスターズゲームズと、3年間連続で大規模なスポーツイベントが控えています。その他にも大規模な国際大会の開催が複数予定されていることから、スポーツ庁と経済産業省が設置した「スポーツ未来開拓会議」にて、これらの年を「ゴールデン・スポーツイヤーズ」と名付けています。

＜今後開催される国際競技大会の一覧＞

開催年	大会名	開催予定地・期間
2019年	柔道世界選手権	東京都／8月
	ラグビーワールドカップ2019	全国／9月-10月
	バレーボールワールドカップ2019	女子大会 横浜市他／9月14日-9月29日 男子大会 福岡市他／10月1日-10月15日
	女子ハンドボール世界選手権	熊本県／12月
2020年	第32回オリンピック競技大会	東京都他／7月24日-8月9日
	第16回パラリンピック競技大会	東京都他／8月25日-9月6日
2021年	ワールドマスターズゲームズ2021	関西圏／5月15日-5月30日
	世界水泳選手権2021	福岡市／夏期

出典：スポーツ庁 HP：<http://www.mext.go.jp/sports/>

※2 スポーツマーケットの拡大

欧米諸国では、スポーツを成長産業と捉え、プロスポーツリーグやスタジアム・アリーナの施設整備、健康や体づくりのためのスポーツ関連市場など、様々な分野に対して投資を加速させてきており、スポーツビジネスが巨大な産業となっています。

一方で日本のスポーツ産業は、2002年当時に約7兆円だったものが、2012年時点では約5.5兆円と縮小したものの、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会の開催決定等を契機として、スポーツを通じた地域経済活性化への期待が高まっています。

我が国スポーツ市場規模の拡大について【試算】

(単位：兆円)

スポーツ産業の活性化の主な政策 (主な政策分野)	(主な増要因)	現状※	2020年	2025年
		5.5兆円	10.9兆円	15.2兆円
①スタジアム・アリーナ	▶ スタジアムを核とした街づくり	2.1	3.0	3.8
②アマチュアスポーツ	▶ 大学スポーツなど	-	0.1	0.3
③プロスポーツ	▶ 興行収益拡大(観戦者数増加など)	0.3	0.7	1.1
④周辺産業	▶ スポーツツーリズムなど	1.4	3.7	4.9
⑤IoT活用	▶ 施設、サービスのIT化進展とIoT導入	-	0.5	1.1
⑥スポーツ用品	▶ スポーツ実施率向上策、健康経営促進など	1.7	2.9	3.9

※ (株)日本政策投資銀行「2020年を契機としたスポーツ産業の発展可能性および企業によるスポーツ支援」(2015年5月発表)に基づく2012年時点の値。

出典：スポーツ庁「新たなスポーツビジネス等の創出に向けた市場動向」

※3 日本再興戦略 2016 による「スポーツの成長産業化」とスポーツ基本計画

政府は、日本再興戦略 2016（2016 年 6 月 2 日閣議決定）において、「スポーツの成長産業化」を官民戦略プロジェクト 10 に位置づけています。スポーツ産業の市場規模を 2025 年に 15 兆円とすることなど、成長産業化が期待されています。

日本再興戦略2016（2016年6月2日閣議決定）より抜粋

■スポーツ産業の未来開拓において示されたKPI※

- ①スポーツ市場規模（昨年：5.5兆円）を2020年までに10兆円、2025年までに15兆円に拡大することを目指す。
- ②成人の週1回以上のスポーツ実施率を、現状の40.4%から2021年までに65%に向上することを目指す。

■新たに講ずべき具体的施策

- 1) スタジアム・アリーナ改革（コストセンターからプロフィットセンターへ）
 - ①スタジアム・アリーナに関するガイドラインの策定
 - ②「スマート・ベニュー」の考え方を取り入れた多機能型施設の先進事例の形成支援
- 2) スポーツコンテンツホルダーの経営力強化、新ビジネス創出の促進
 - ①大学スポーツ振興に向けた国内体制の構築
 - ②スポーツ経営人材の育成・活用プラットフォームの構築
- 3) スポーツ分野の産業競争力強化
 - ①新たなスポーツメディアビジネスの創出
 - ②他産業との融合等による新たなビジネスの創出
 - ③スポーツ市場の拡大を支えるスポーツ人口の増加（年代や男女等の区別のないスポーツ実施率向上）

※KPI…Key Performance Indicator の略です。日本語では「重要業績評価指標」と訳されます。

※ 4 スタジアム・アリーナ改革

経済産業省とスポーツ庁は、スポーツの成長産業化を促進する起爆剤として「スタジアム・アリーナ改革」を大きな柱として位置づけ、官民連携によるスタジアム・アリーナ整備等を推進するため、「スタジアム・アリーナ推進官民連携協議会」を設置しています。

民間の資金や経営能力、技術的能力を活用した新たなビジネスモデルの開発・推進や公共的な価値の最大化など、今後のあり方について議論されており、その内容を「スタジアム・アリーナ改革ガイドブック」として公表しています。

スタジアム・アリーナ推進官民連携協議会の検討過程

- スタジアム・アリーナ改革指針（2016年11月）**
スタジアム・アリーナ改革の基本的な考え方を提示
 - ・コストセンターからプロフィットセンターへ
 - ・まちの賑わいの創出といったスポーツの波及効果を活用したまちづくり
 - ・地域のアイデンティティの醸成などによる地域の持続的成長
- スタジアム・アリーナ整備に係る資金調達手法・民間資金活用プロセスガイド（2017年5月）**
スタジアム・アリーナプロジェクトにおける民間活用に関する論点を整理
 - ・官民連携による目的・目標の設定（対等な官民パートナーシップの構築）
 - ・ビジネスモデルの策定（プロフィットセンター化の実現）
- スタジアム・アリーナ運営・管理検討会（2017年12月～）**
運営・管理を想定したスタジアム・アリーナ整備を進めるための論点を整理
 - ・望ましい官民連携の検討手法（コンテンツホルダーや運営の専門家の意見反映）
 - ・スタジアム・アリーナの経済的・社会的効果最大化



出典：スポーツ庁「未来投資会議構造改革徹底推進会合」

(2) 本市の現状と課題

本市は、男子プロバスケットボールリーグ「B.LEAGUE」の最高峰であるB1に所属する「三遠ネオフェニックス」のホームタウンであり、豊橋市総合体育館（以下、「総合体育館」という。）では年間22試合（2017-2018シーズン実績）のホームゲームが開催され、多くの観客が応援に駆けつけています^{※5}。

しかし、総合体育館はスポーツをすることに重点が置かれた施設であり、スポーツを観て楽しむ環境が十分ではありません。また、豊橋駅から5 kmほど離れた場所に立地していることから、来場者の交通手段は主に自家用車であり、試合観戦後は直接帰宅する人が多いというのが現状です。そのため、来場者による経済効果やスポーツをまちづくりに活用することができているとは言えず、プロスポーツというコンテンツを十分に活かしてきていないという課題があると考えられます。

また、総合体育館は、1989年（平成元年）の設立から多くの市民に愛され、非常に高い稼働率で推移してきましたが、建設以来約30年が経過し老朽化も進んでいることから、大規模改修等を行う必要が生じています。

さらに、2016年度（平成28年度）から三遠ネオフェニックスが総合体育館をホームアリーナとしたことで、ひっ迫していた土日・祝日の市民利用が以前にも増して過密な状況となっています。

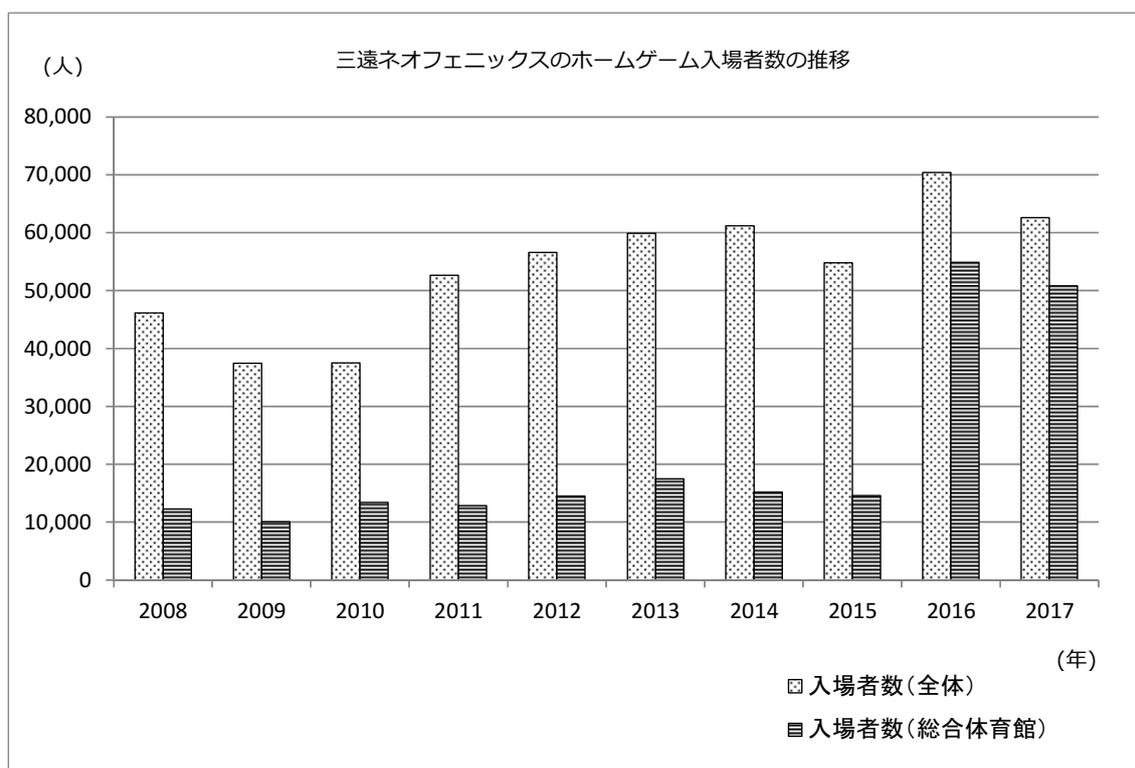
加えて、総合体育館はB1リーグの施設基準^{※6}を満たしていないという課題も生じています。



※5 三遠ネオフェニックスのホームゲーム入場者数の推移

三遠ネオフェニックス（bjリーグ（2008年～2015年）では浜松・東三河フェニックス）の入場者数は、bjリーグ、B.LEAGUEを通して平均2,000人前後で推移していますが、B.LEAGUEの開幕後、総合体育館をホームアリーナとしたことから、試合数、入場者数が増加しています。

シーズン		総合体育館			全体(他会場含む)		
		試合数	入場者数 合計	平均 入場者数	試合数	入場者数 合計	平均 入場者数
bjリーグ	2008	8	12,305人	1,538人	29	46,161人	1,592人
	2009	8	10,106人	1,263人	28	37,489人	1,339人
	2010	8	13,444人	1,681人	24	37,518人	1,563人
	2011	6	12,857人	2,143人	29	52,653人	1,816人
	2012	6	14,529人	2,422人	26	56,605人	2,177人
	2013	6	17,480人	2,913人	28	59,949人	2,141人
	2014	6	15,207人	2,535人	28	61,196人	2,186人
	2015	6	14,626人	2,438人	28	54,808人	1,957人
B.LEAGUE	2016	24	54,898人	2,287人	30	70,391人	2,346人
	2017	22	50,814人	2,310人	30	62,630人	2,088人



※ 6 Bリーグホームアリーナ検査要項

【B1リーグにおけるホームアリーナの主な検査要項】

入場可能数	5,000 席以上 ※仮設席、立見席を含む。
大型映像装置	・観客から視認可能な位置に設置された大型映像設備を常設設備として必要。
トイレ	・入場可能数に対して 2%の人が同時に利用可能な規模。
一般駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場は騒音の影響で施設近隣から苦情等が発生しない場所にある。 ・緊急時の搬送出入口に隣接して、緊急車両を横付けできるスペースが設定できる。 ・公共交通機関の利用環境、および施設の立地環境を鑑みて、観客が利用できる相応規模の駐車場スペースが常設施設としてある。但し、施設が主要駅等から徒歩圏内にある場合はその限りではない。 ・臨時シャトルバスの運行がある場合は、入場口にアクセスしやすい場所に乗降場所を設定でき、また、必要に応じて待機用駐車スペースを確保する。

B.LEAGUE OFFICIAL RULE BOOK 2018-19

公益社団法人
ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ

規約・規程集



(3) 新アリーナ整備の検討経緯

総合体育館が抱える諸課題を踏まえ、2016年度（平成28年度）には新アリーナを取り巻く状況、豊橋公園と豊橋総合スポーツ公園との立地比較、事業手法、課題等を「多目的屋内施設整備調査委託報告書」としてまとめました。

また、本市の動きとは別に、経済産業省が「豊橋新アリーナ構想」として2017年（平成29年）3月に報告書をまとめました。

このような検討を進める中、複数の民間事業者から新アリーナの整備に関する意欲的な提案がありました。そこで、豊橋駅から徒歩での移動が可能な豊橋公園内を建設候補地として新アリーナの建設・運営について民間事業者から幅広く提案を募集し、審査により本事業を共に検討する協議対象者を選定しました。

(4) 新アリーナを核としたまちづくりの必要性

国はスポーツを「成長産業」の一つとして位置付け、その経済的、社会的側面を活用することで、地域の活性化に貢献するものになるとしており、その中でもアリーナは中核を担う施設であるとしています。

そうした中、本市では新アリーナを中心市街地内にある豊橋公園に設置することで、交流人口が拡大し、飲食や宿泊への経済的効果や雇用が生まれると考えています。

また、新アリーナでハイレベルなスポーツイベントが行われることは、多くの観戦者に夢や希望、感動を与えるだけでなく、新たなアスリートを生み、育てるといった人材育成の好循環を生み出すことにもなり、それを支える応援の輪が広がることで、地域への愛着が醸成されるなど、社会的効果が生まれると考えています。

人口減少局面を迎え、現状の高度な都市機能や質の高い住民サービスを維持するためには、市内外の人を呼び込みまちの活力を高めていく必要があります。新アリーナを核としたまちづくりを進めることで本市に新たな活力を生み出し、今まで以上にいきいきとしたまちをつくり未来へつなげていく必要があると考えています。

(5) 計画策定の目的

新アリーナを活かしたまちづくりを進めるためには、新アリーナに関わるすべての人たちが、目指すまちの姿を共有し、その実現のために各々の立場だけでなく、連携・協働しながら具体的な取組みを進めることが重要です。

本計画は、市内全域を対象に健康で明るく元気な「スポーツのまち」を実現するための羅針盤として、新アリーナを核としたまちづくりの基本的な考え方を定めるとともに、豊橋公園内の施設等の整備や来場者の動線計画を明らかにするために策定します。

『スポーツのまち』づくりとは

本市が目指す「スポーツのまち」とは、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、いつでも、どこでも、誰でもスポーツを気軽に楽しみ、ふれあい、関わるができるような環境が整った「まち」であり、本市が捉える「スポーツ」とは、自らが「する」だけでなく、スポーツを「観る」ことや、スポーツをする人とその環境を「支える」ことも含まれるものであると考えます。

スポーツを「する」こととは、ジョギングなど健康・体力づくりに役立つ手軽なものから、トップアスリートを目指して本格的な練習を日々積み重ねるものまで、個人の目的に応じたスポーツ活動であると考えます。

スポーツを「観る」こととは、一流のスポーツ選手のパフォーマンスを実際に観ることで、アスリートに対しての憧れや感動をおぼえ、スポーツを始めるきっかけとなったり、日々の生活の活力や勇気をもたらすことであると考えます。

スポーツを「支える」こととは、選手を育てるコーチはもちろん、選手の家族、友人、ファンなども含めたスポーツを「支える」人が、選手の指導や、支援・応援を行うことでスポーツに携わっていくことであると考えます。

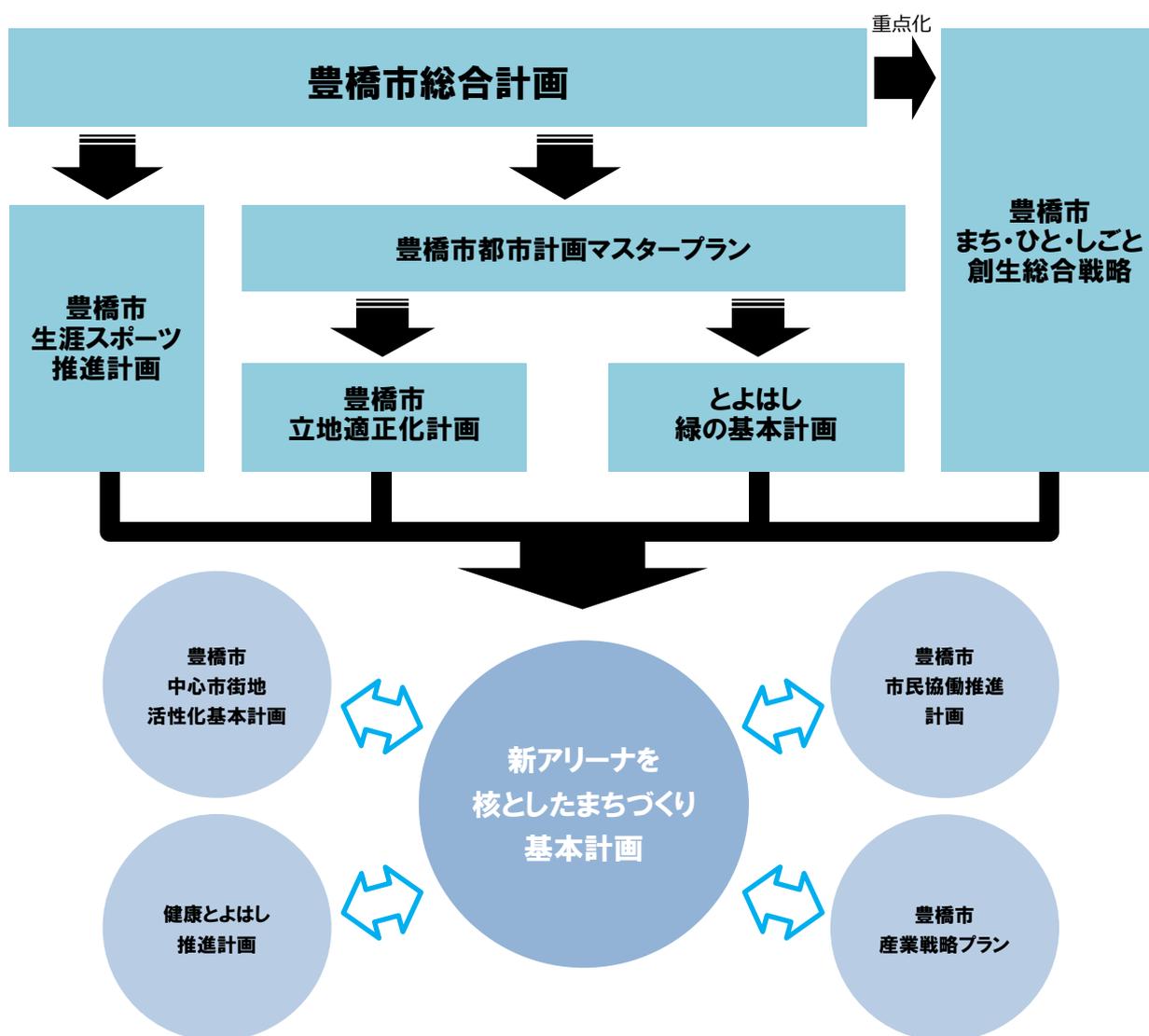
スポーツを「する」ことで、本市から全国・世界に羽ばたくトップアスリートやチームが育ちます。そのパフォーマンスを「観る」ことで得られた、憧れや感動は、市民がスポーツを始める動機となり、本市におけるスポーツ人口の増加につながります。またトップアスリートや特定のチームを応援することで、スポーツを「支える」人にもなりえます。そして、アスリートが第一線を退いた後に、指導者として選手を「支える」人となり、また次の世代のアスリートを育てるといった循環の仕組みが構築される考えます。

このようにスポーツを「する」「観る」「支える」ことができる環境を整え、そこに携わる人々が連鎖・循環することで、まちが元気で明るくなっていきます。その結果、スポーツによる地域コミュニティやアイデンティティの形成につながり、スポーツが盛んなまちへとつながっていきます。このようなまちづくりを進めていくことで「スポーツのまち」がつくられていくと考えます。

2 計画の位置付け

本計画は、豊橋市総合計画を最上位計画とし「豊橋市生涯スポーツ推進計画」、「豊橋市都市計画マスタープラン」、「豊橋市立地適正化計画」、「とよはし緑の基本計画」、「豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の方針を踏まえて策定するものです。

また、その他関連計画と連携を図ることで、本計画の実行性を担保していきます。



3 計画期間

計画期間は、2019年度から2023年度までの5年間とします。なお、社会情勢や進捗状況など必要に応じて計画の見直しを行っていきます。

4 基本理念

新アリーナによる新たな価値の創造

本市が計画している新アリーナは、単にプロスポーツの試合を観戦するだけでなく、スポーツを「する」「観る」「支える」人々の交流・連携の場所となります。また市民の誰もが年齢、体力、技能、興味や目的に応じてスポーツに親しむ場所にもなり、スポーツのまちづくりを推進するための核となる施設です。

新アリーナで開催されるトップアスリートの試合は、観るものを魅了し、市民に「観る」スポーツの楽しさを教えてくれるほか、スポーツを身近に感じてもらうことができ、市民の「する」スポーツへのきっかけにもつながります。こうした「する」「観る」スポーツを通して、市民の健康づくりを推進するほか、将来を担う新たなアスリート輩出につながる環境づくりを進めます。また、本計画においては「する」「観る」と同様に、「支える」もスポーツ振興に欠かせないものとして位置付け、新アリーナがもたらす新たな魅力を活かした「支える」スポーツの推進を図ります。

一方、新アリーナはコンサートや展示会などスポーツ以外にも多目的に活用できる施設であり、地域の活性化を進めるための中心的な場所になると考えています。建設候補地である豊橋公園の立地を活かし、こども未来館〔ここにこ〕、穂の国とよはし芸術劇場〔PLAT〕、整備が進むまちなか図書館（仮称）といった公共施設を有するまちなかエリアに新たな魅力を加えることで、世代を超えた交流を促し地域経済の活性化が期待できます。またスポーツ分野だけではなく健康、教育、文化、産業、観光、シティプロモーションなど様々な分野において大きな波及効果を生み出すものと考えられます。

そこで、本計画の基本理念を『新アリーナによる新たな価値の創造』と定め、新アリーナを核としたまちづくりを進めていきます。

5 基本方針

本計画の基本理念「新アリーナによる新たな価値の創造」を踏まえた具体的な活動の方向性を明らかにするため、次の3つを基本方針として定めます。

◆ 基本方針 ◆

- スポーツを「する」・「観る」環境の整備
- スポーツを「支える」人づくり
- 地域経済の活性化とまちなかのにぎわい創出



(1) スポーツを「する」・「観る」環境の整備

誰もが健康で笑顔あふれる生活を送れるよう、スポーツを「する」・スポーツを「観る」拠点となる新アリーナの整備を進めます。

新アリーナは、トップアスリートによる試合だけではなく、市民も広く利用することが可能な施設です。誰もが気軽に楽しめるスポーツ施設として多世代の交流を促すほか、若い世代のアスリート育成を含め、一人でも多くの市民が個々のニーズに合ったスポーツに出会い、生涯にわたってスポーツを「する」ことができる施設とする必要があると考えます。

選手の競技力向上への取組みは、対象となる選手だけに意義があるのではなく、地元の選手が様々な大会で活躍する姿は、観る人の感動や興奮を喚起し、スポーツを始めるきっかけや、継続する目標にもなります。中でも、新アリーナで行われるプロ・アマのハイレベルな試合を観戦することは、私たちに憧れや感動を抱かせ、スポーツを「観る」という文化を市民に定着させるものになると考えます。こうしたスポーツを「する」・スポーツを「観る」拠点となる新アリーナの整備を進めます。



総合体育館における三遠ネオフェニックスの試合の様子

新アリーナの整備で促進・導入を想定している主な取組み

1 トップアスリートとの交流機会の提供

- ・新アリーナで本市ゆかりのトップアスリートとの交流イベントや指導会などを行い、アスリートの競技力向上や市民がスポーツを始めるきっかけを提供します。

2 パラスポーツの普及

- ・東京 2020 パラリンピックで生まれるリトアニア共和国との交流を継続するとともに、パラスポーツの紹介や体験ができるイベントを新アリーナで開催します。

3 新たなスポーツを体験できる機会の創出

- ・今まであまり体験する機会がなかったニュースポーツなどを中心としたイベントを開催し、新たなスポーツの楽しみ方を知る機会を作ります。

4 誰もが気軽にスポーツを「する」ことができる機会の提供

- ・市民が気軽にスポーツに参加できる機会を提供し、運動習慣の定着を図ります。また、子どもたちがスポーツを楽しみながら体力づくりをすることができる機会を提供し、子どもの体力向上を促進する取組みを進めます。

5 スポーツ観戦の新たな楽しみ方の提案

- ・AR^{※7}などの最新技術を用いたエンターテインメント性の高いスポーツイベントを開催するなど、スポーツ観戦の新たな楽しみ方を提案します。また、スポーツ庁が進める日本版NCAA^{※8}の取組みを推進するため、市内の大学と連携し、学生スポーツの観戦機会を提供します。

※7：AR…Augmented Reality の略です。日本語では「拡張現実」と訳されます。

※8：日本版 NCAA…大学スポーツ全体を統括しその発展を戦略的に推進する大学横断的かつ競技横断的統括組織

(2) スポーツを「支える」人づくり

指導者、ボランティア、選手を応援する人など、スポーツを「支える」人づくりを進めます。

スポーツを「支える」方法には様々なものがあります。例えば、穂の国豊橋ハーフマラソンを支えるボランティアに象徴されるように、大会を支える誇りはスポーツへの新たな関わり方として定着しています。イベントの運営やサポートなどを行うスポーツボランティア以外にも、試合の審判や監督、コーチもスポーツを支える存在です。そして地元出身の選手や地元のチームに愛着を持ち応援するという文化を広げていく活動も、スポーツを支えることです。さらに企業等がスポーツ用品や用具を提供したり、スポーツイベントに協賛したりすることも、スポーツを支える活動に含まれます。また、一線を退いたトップアスリートが今まで培った経験や知識を活かして、次世代の選手を育てることも、スポーツを支えることです。

「スポーツのまち」をつくっていくためには、豊橋体育協会や各種競技団体などスポーツに関わる様々な人々と連携しながら、スポーツを支える人たちを育てていくことが重要です。新アリーナでの活動を通してこうしたスポーツを「支える」人づくりを進めます。



みなとシティマラソンでのボランティアの様子

新アリーナの整備で促進・導入を想定している主な取組み

1 競技力向上に寄与する指導者の養成

- ・記録向上を目指す選手にとっては、指導者の存在が重要になります。設備の整った新アリーナで指導者講習会などを行い、高度な専門技術や知識を効果的に選手に伝えることのできる指導者の養成に努めます。

2 新アリーナを活用したスポーツキャリアの循環

- ・一線を退いたトップアスリートが、新アリーナで指導者として新たな選手を発掘・育成するなど、セカンドキャリアを活用した人材育成を進めます。

3 ボランティアをはじめとする市民活動への参加機会の拡充

- ・大会運営や試合のサポートといった競技者やチームを支える人たちの活動機会を増やし、市民や企業などによる市民活動への参加機会の拡充を図ります。

4 地域でスポーツを支える環境づくり

- ・本市ゆかりの選手やチームを支援することは、地域のアイデンティティの醸成につながります。また、支援を行う組織が新たに生まれることは、コミュニティ形成にもつながります。本市がホームタウンである三遠ネオフェニックスや新アリーナで活躍する選手を応援することで、スポーツを支える環境づくりを進めます。

5 競技人口が少ないスポーツに接する機会の拡大

- ・競技人口の少ないスポーツは、情報が少なく新たにスポーツをはじめようとしている人の選択肢になることが困難だと考えられます。これらのスポーツの情報発信や体験イベントを新アリーナで行い普及啓発を図ります。

(3) 地域経済の活性化とまちなかのにぎわい創出

新アリーナの立地を活かした、地域経済の活性化とまちなかのにぎわい創出に寄与する取組みを進めます。

新アリーナでは、プロスポーツ以外にもエンターテインメント性の高いコンサートや展示会など様々な催しが開催されることから、全国から年齢、性別、国籍を超えて多くの方が本市を訪れます。

建設候補地である豊橋公園は、豊橋駅から徒歩圏内であることから、来訪者の多くがまちなかを経由して新アリーナに訪れることが想定されます。まちなかを歩きたくなる仕掛けづくりや観戦後のファン同士の交流の場、新アリーナでの催しと連携したまちなかイベントなどは、まちなかでの滞在時間の拡大と合わせ飲食や物販などのサービス消費の拡大につながります。こうした、まちなかのにぎわい創出につながる取組みを進めます。

また、新アリーナは、コンベンションや地元中小企業の技術を発表する場としての活用も期待できます。こうした催しは、来場者の飲食・宿泊などのサービス消費だけでなく、地元中小企業の販路拡大など、地域経済の活性化にも大きく寄与することから、地域経済への波及効果が期待できる取組みについても積極的に進めます。



まちなかの飲食店でスポーツ観戦を楽しむ人々の様子

新アリーナの整備で促進・導入を想定している主な取組み

1 ハイレベルな試合の誘致・開催

- ・広域から集客が可能なプロスポーツなどのハイレベルな試合を誘致、開催する取組みを進めます。

2 まちなかで開催されるイベントとの連携

- ・新アリーナで行われるイベントと連携した催しをまちなかで開催し、それらの相乗効果により中心市街地の回遊性の向上を促進します。

3 魅力あるまちなか店舗との連携

- ・新アリーナで開催されるイベント時に、拡散力のある媒体を利用して、まちなかの店舗情報を発信するなど、まちなかのにぎわい創出につながる取組みを進めます。

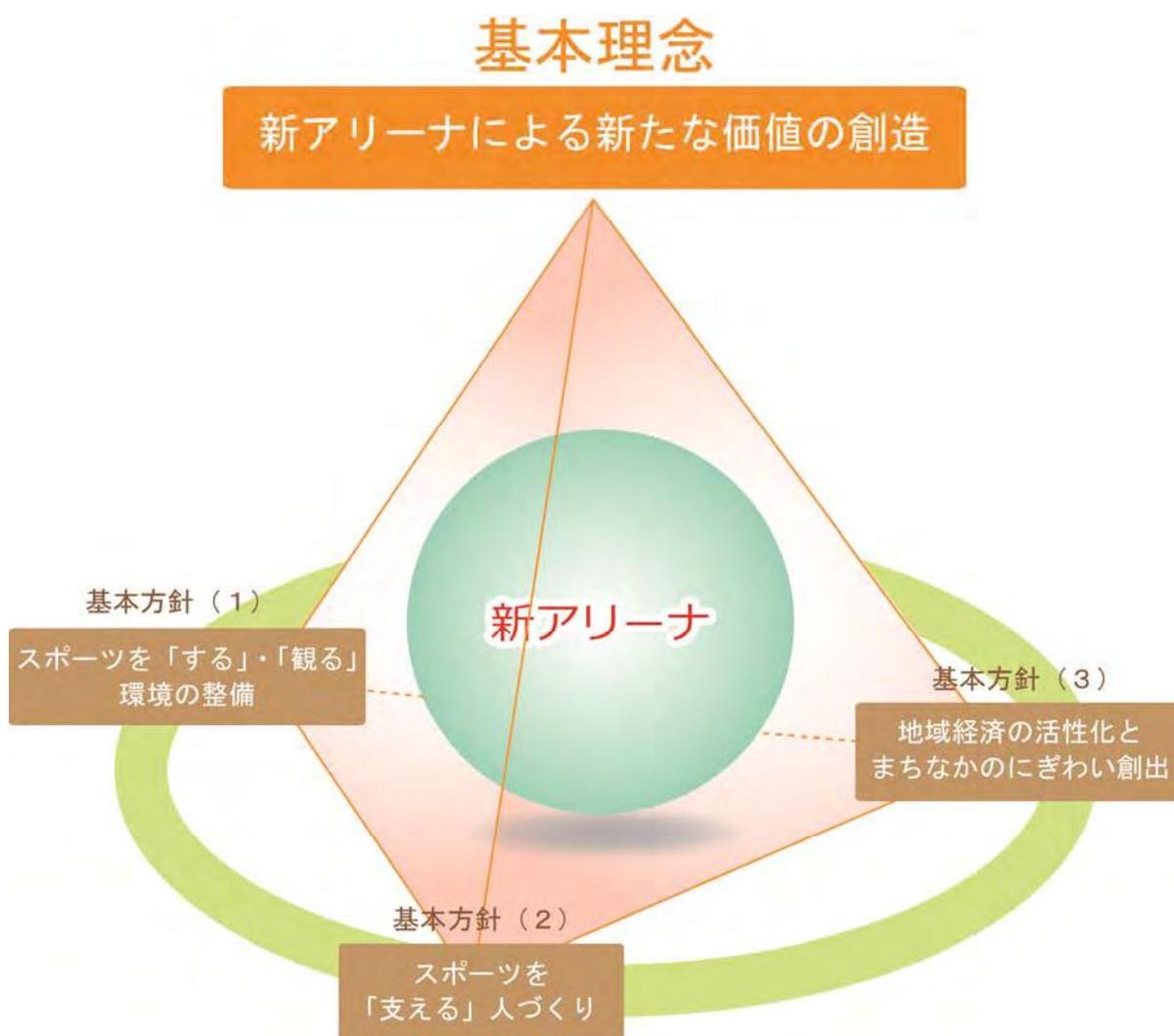
4 フェニックスのチームカラーを取り入れた街の整備

- ・まちなかの関係施設や店舗などと連携し、豊橋駅から新アリーナまでのアクセスルートにフェニックスのチームフラッグを設置したり、チームカラーである赤色でライトアップするなど、まちと新アリーナとの連続性を示せるような取組みを進めます。

5 新アリーナの多目的な活用による地域経済の活性化

- ・新アリーナは、スポーツ以外にもコンベンションの開催など多目的な利用が可能な施設であることから、新アリーナから本地域の産業を積極的に発信し、地域経済の活性化が図られるような取組みを進めます。

新アリーナを核としたまちづくりのイメージ



6 豊橋公園内の施設等の整備・再配置について

(1) 整備・再配置の基本的な考え方

豊橋公園は、文化・歴史的な施設と共にスポーツ施設が併設された公園であり、本市をはじめ東三河の多くの方に親しまれています。文化やスポーツを楽しむ場であるとともに、本市のまちなかのにぎわいの拠点として、日頃から様々な目的を持った多くの人が集う場となっています。

そのため、豊橋公園内の施設等の整備・再配置においては、豊橋公園内のスポーツ施設をよりよい環境で利用することやまちなかの貴重な集いの場としてのポテンシャルを活かしていくため、一定程度の空地を確保しながら整備・再配置を行います。

また、豊橋公園は有事の際の活動拠点となっていることから、防災機能に配慮した整備・再配置を行います。

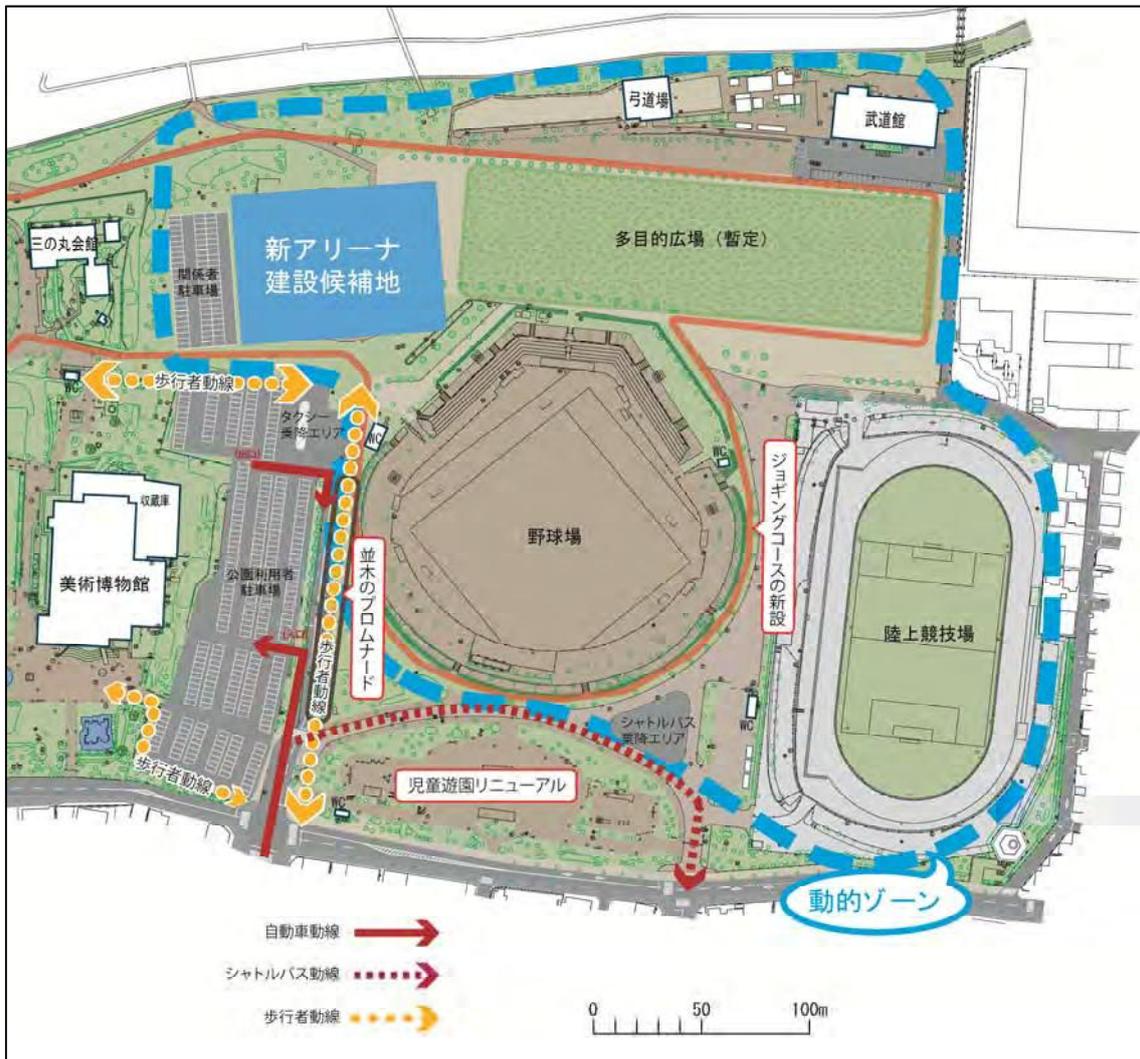


豊橋公園動的ゾーン 現況図

(2) 豊橋公園内の施設の整備・再配置

(整備方針)

- ・ 駐車場は現在の庭球場と美術博物館駐車場の位置に一体的に整備する。
- ・ タクシー乗降エリアについては駐車場北側の一角とする。
- ・ 駐車場は入口1か所、出口1か所とする。
- ・ シャトルバス乗降エリアを児童遊園と陸上競技場の間に設置する。



豊橋公園動的ゾーン 整備計画図

(メリット)

- ・ 児童遊園については現行の面積を確保することが可能となる。
- ・ 駐車場を豊橋公園中央に一体的に整備することで車両と公園利用者の分離が可能になる。
- ・ タクシー乗降エリアを新アリーナに近接する場所に設置することで、高齢者や障がい者をはじめとした利用者の利便性が確保できる。
- ・ 駐車場の入口と出口を分離することで、入出庫がスムーズに行われる。

(デメリット)

- ・ 歩車の分離は行われるものの、車両進入路が長いため、公園内に十分な歩道が確保しにくい。

① 駐車場

駐車場の整備については、公共交通の利用促進や歩いて暮らせるまちづくり、まちなかのにぎわいづくりの観点から、既存施設の利用者や障がい者の方たちなどが利用可能な駐車場として現状の駐車台数と同等規模である 400 台程度を豊橋公園内に整備していきます。

新アリーナの興行開催時の来場者用駐車場については、豊橋公園内に十分に確保するスペースが無く、仮に一定程度の駐車場を設置したとしても入庫を待つ車により周辺道路が渋滞するなどの問題が生じると考えられます。また、興行終了時には、来場者は同時に出庫することが想定され、渋滞による周辺環境への影響も考えられることから、興行来場者用の駐車場は設けないこととします。

駐車場の位置は、公園内の歩行者動線との重複をさけるため、1か所に集約することが望ましいと考えられます。そこで、公園中央に集約し新アリーナへ直接アクセスできる車動線を確保します。

駐車場の出口については複数個所設置することは可能ですが、短時間に多量の車が出庫することで豊橋公園周辺の道路が渋滞し、周辺環境への影響が大きいことから現状と同様に出口を1か所とします。

また、シャトルバスやタクシー等の利用の増加も今後想定されることから、豊橋公園内に乗降エリアを設置していきます。

加えて、自転車の駐輪エリアについても設ける方向で検討します。

②テニスコート・クラブハウス

現在、豊橋公園内には硬式庭球場 2 面、軟式庭球場 12 面の合計 14 面が整備されていますが、新アリーナの整備に伴いすべてを移転します。

移転先については、部活動等の大会での使用が想定されるため、豊橋公園と同様に公共交通機関が利用可能で市内の各所から集まることができる場所に設置することが望ましいと考えます。

また、大会等を開催するためには 1 か所で 16 面以上のコートが必要であることから、既存のコートを利用して整備することができる岩田運動公園内に新たに設置していくこととします。新たに整備する面数については、豊橋公園内にある既存の 14 面を基本とし、今後、地元や関係団体と協議する中で決定していきます。

クラブハウスについても、岩田運動公園内に整備を進めます。

③児童遊園・並木のプロムナード

児童遊園は、現状の規模を確保しつつ、その設備については、近隣住民や利用者等の意見を集約しながら整備を進めます。

また、並木のプロムナードについては、豊橋公園南側からの景観を考慮しながら設置の方向で検討を進めます。

④ジョギングコース

新アリーナの位置や公園内の動線計画とともに、新たなコースの検討を進めます。

(3) サブアリーナについて

サブアリーナについては、新アリーナの機能や武道館をはじめとした豊橋公園内の他のスポーツ施設の役割を整理する中で、そのあり方について検討を進めます。

(4) 防災活動拠点について

豊橋公園は有事の際に応援部隊を受け入れる地域防災活動拠点に指定されており、本市の防災活動拠点としての役割を担っています。また、公園内には、防災備蓄倉庫や救援物資の受け入れを行う陸上競技場があり、新アリーナは物資輸送の拠点となることが想定されます。こうしたことから、新アリーナは、本地域の安全・安心の拠点となるよう、豊橋公園内の防災機能等を強化する視点に配慮し整備を進めます。

7 新アリーナ興行開催時の動線計画

(1) 交通手段別来場者予測

新アリーナでの興行開催時の来場者（5,000人想定）は、豊橋駅を經由して徒歩、路面電車、路線バスで来場することが想定されますが、本地域の特性を考えると一定程度は自家用車での来場を希望する方がいると考えられます。

過去のアンケートや現地調査で得られた結果をもとに、来場者を「駅を經由せず直接会場へ」、「豊橋駅利用」、「自家用車利用」の3つに分け、それらをアンケート結果の割合を用いて各交通手段別に来場者数を算出しました。（来場者予測の詳細はP 65参照、アンケート結果はP 66参照）

＜交通手段別来場者予測＞

	駅を經由せず 直接会場へ	豊橋駅利用			自家用車利用			
		徒歩	路面電車	路線バス	中心市街地の駐車場利用者 2,483人(1,242台)※			送迎
来場者 (5,000人想定)	500人				徒歩	路面電車	路線バス	
		1,405人	352人	43人	1,890人	528人	65人	217人

※自家用車台数は2人につき1台として換算

算出された結果では、送迎を除いた自家用車の利用者が2,483人となります。自家用車1台に2人が乗車すると想定した場合、1,242台の駐車場を公園外に確保する必要があります。そこで、新アリーナで興行が行われると想定される時間帯に豊橋駅から豊橋公園に至るまちなかの公共駐車場ならびに民間駐車場の利用状況を調査したところ（調査結果はP 27参照）1,300台程度の駐車余地があるという結果が得られたため、これらを活用し、自家用車での来場者に対応していくこととします。

なお、駅周辺の駐車場利用においては混雑が予想されることから、駐車場へのスムーズな誘導についても今後、検討する必要があると考えています。

- ルート① （主に豊橋駅を利用する来場者を想定したルート）

本市の主要な商店街である広小路通りを通過するルートであるため、来場者による経済効果が期待できる。歩道には十分な幅員があり、また電線も地中化されており、安全かつ分かり易いルートとなっている。

- ルート② （主に中心市街地の駐車場利用者を想定したルート）

本市の観光資源である市電の沿線に沿ったルートになっている。駅前大通りには百貨店やまちなか図書館（仮称）の建設も計画されていることから、はじめて本市を訪れた方にも分かり易く安全に歩くことが可能なルートとなっている。

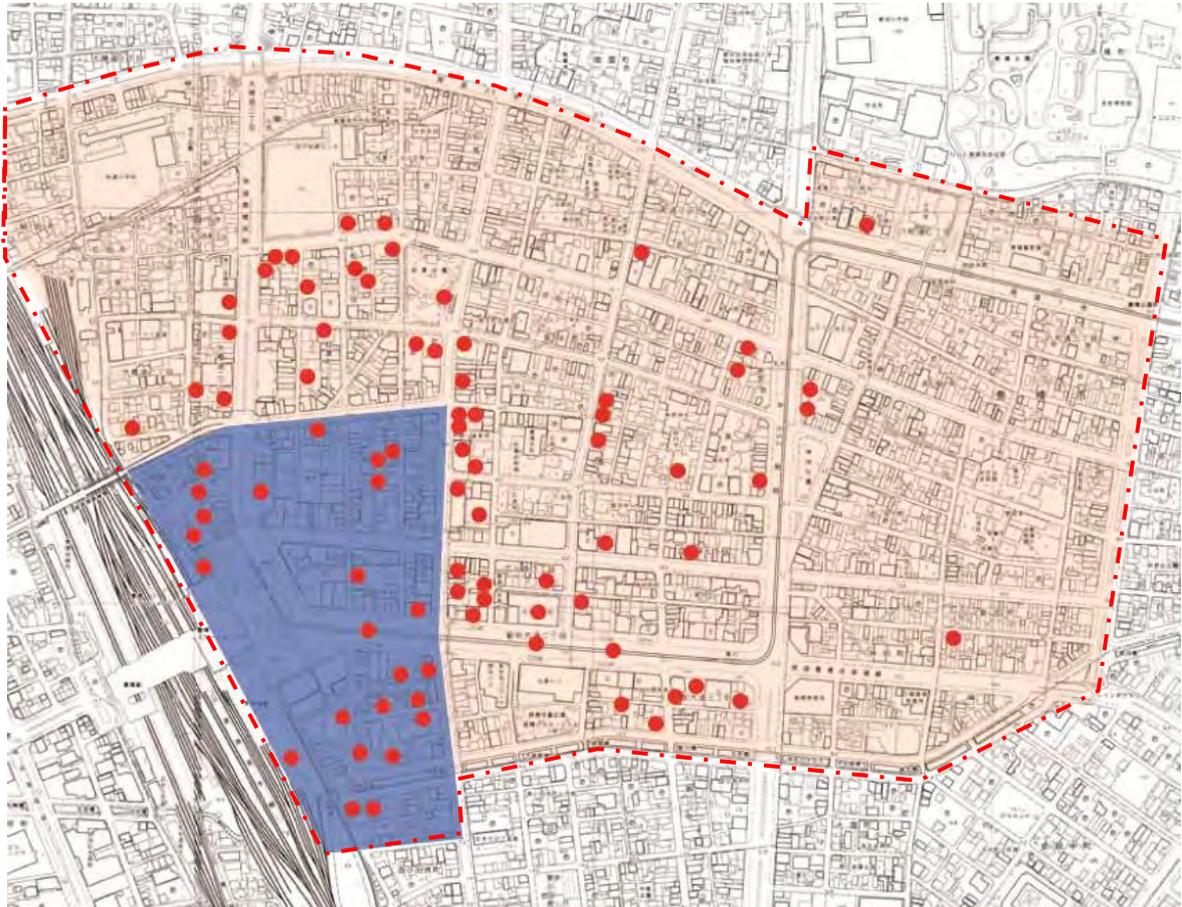
- 活用が期待できる通り

飲食店、物販店などが集まる商店街や観光資源があることから、これらのルートについても、歩行者動線として活用していきます。

【参考】 中心市街地の駐車場利用状況調査結果

調査実施日：2018年11月3日（土）15時 天候：晴

中心市街地の駐車台数と実態調査にもとづく稼働率より、新アリーナで催しが開催される時間帯を想定した空き状況を試算する。



エリア		駐車場数	収容台数	稼働率	空き率	空き駐車台数
A	 豊橋駅に近いエリアの駐車場	24ヶ所	1,142台	81.3%	18.7%	213台 (16.2%)
B	 上記A以外のエリアの駐車場	57ヶ所	2,326台	52.5%	47.5%	1,104台 (83.8%)
	 中心市街地の駐車場 (※豊橋駅西地区を除く)	81ヶ所	3,468台	-	-	1,317台 (100.0%)

8 新アリーナによる経済効果の想定

(1) 経済効果について

経済効果とは、新たな需要が発生したときに、その需要を満たすために次々と新たな生産が誘発されていくことを言います。新アリーナに来場する人々は、入場料をはじめ交通費、飲食費等として消費をすることとなりますが、それらを運営、製造するための燃料や電気などの原材料が必要となります。さらに、それらの材料等を得るために、その原材料の生産が必要となります。そしてさらに、それらの原材料の生産が必要になる、というように、生産が生産を呼び、様々な産業へと次々と生産が波及することを経済効果として試算しています。

経済効果は、主に①直接効果、②第1次間接波及効果、③第2次生産波及効果の3つの効果に分けられます。また、これらの経済波及効果の試算には、新たな雇用創出と雇用者所得の増加についても加味されます。

①直接効果

直接の需要増加額のうち市内で調達できるものを直接効果と呼び、新たな消費等によって発生した生産のことです。市内で調達できないものは他の地域から移輸入してくることになり、市内での生産活動には結び付かないため、分析では除外します。

②第1次間接波及効果

直接効果によって生産が増加した産業で必要となる原材料等を満たすために、新たに発生する生産誘発のことです。新たな生産が起これば、その原材料等から発生する経済波及効果と言えます。

③第2次生産波及効果

直接効果と第1次間接波及効果で増加した雇用者所得のうち消費にまわされた分により、各産業の商品等が消費されて新たに発生する生産誘発のことです。生産活動により増加した雇用者所得から発生する経済波及効果と言えます。通常の経済波及効果分析では、第3次波及効果以降の生産誘発額は極めて小さく、また、在庫処分などにより波及の中断等が考えられるため、第2次生産波及効果までで留め置きます。

④新たな雇用創出と雇用者所得の増加について

第1次間接波及効果により生産が増えると、それらの事業所で働く人たちが増えるとともに、雇用者の所得も増えます。その増えた所得で新たな買い物をするにより、様々な製品の購入が増えることとなります。その新たに購入される製品の生産が必要に

なり、その製品を作る工場で働く人たちの所得が増えます。このように、経済効果においては、新たな雇用者数の増加と雇用者所得の増加についても試算されます。

(2) 経済波及効果の試算結果

直接効果は、新アリーナの来場者が支出する入場料、交通費、飲食費、物販費、宿泊費、観光費です。合計した結果、直接効果は632百万円/年と試算されます。

第1次間接波及効果は、新アリーナの来場者の支出、飲食等の需要に対応して関連産業の生産が増える効果であり、218百万円/年と試算されます。

第2次生産波及効果は、関連産業に従事する雇用者の所得増加に伴う消費が、新たに生産を誘発する効果であり、175百万円/年と試算されます。

上記の、直接効果と第1次間接波及効果、第2次生産波及効果の合計が新アリーナによる経済効果となり、1,025百万円/年と試算しました。また、この経済波及効果による本市への税収増は年間1億4,000万円と試算されます。

1 当初設定 (単位:百万円、率)

需要増加額(初期需要額)	690
市内需要額	632
消費転換率	0.734

※消費転換率:家計調査 平成23年平均 東海 二人以上の世帯のうち勤労者世帯 平均消費性向

2 分析結果 (単位:百万円)

	生産誘発額	雇用者所得額	
		粗誘付加価値額	雇用者所得額
直接効果	632	403	178
第1次間接波及効果	218	107	56
第2次生産波及効果	175	107	44
総合効果	1,025	617	278
波及効果倍率 (倍)	1.48		
雇用誘発数 (人)	102		

(注) 四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。
波及効果倍率は当初設定の需要増加額額に対するものです。

(3) 与件データの設定

経済効果の想定は、新アリーナの整備により新たに生まれる需要増加額を豊橋市産業連関表に基づき試算しました。各興行等の開催日数や来場者数の想定は、新アリーナに類似した施設であるゼビオアリーナ仙台や近隣の体育館などの実績を参考にして表1のとおり算出しました。

次に、各興行等について来場者が支出する入場費、交通費、飲食費、物販費、宿泊費、観光費の需要増加額を表2のとおり試算しました。単価については観光庁「旅行・観光消費動向調査」や近隣施設での興行等の実績を参考としています。

《表1 開催日数及び来場者人数内訳》

興行等の種類	開催日数 (日)	来場者数 (人)	算出根拠
Bリーグ	30	103,950	・三遠ネオフェニックスの2017-18シーズン実績より算出
コンサート	14	42,000	・ゼビオアリーナ仙台の実績より想定
コンベンション等	21	66,000	・総合体育館で開催の既存事業より開催日数を算出 ・新規事業についてはゼビオアリーナ仙台の実績より想定
プロスポーツ 大相撲、Vリーグ(バレーボール)、Tリーグ(卓球)など	16	36,050	・総合体育館での開催実績より算出 ・ゼビオアリーナ仙台での実績及び愛知県内の体育館での開催実績より想定
アマスポーツ 中学・高校の東三河大会、県大会など	31	19,250	・総合体育館での開催実績より算出
その他市民利用等	253	46,552	・市民利用ならびに保守点検等の休館日を想定 ・来場者数は豊橋市公共施設白書より算出
合計	365	313,802	

《表2 需要増加額試算表》

(単位：百万円)

興行等 費用	Bリーグ	コンサート	コンベンシ ョン等	プロ スポーツ	アマ スポーツ	その他市 民利用等	合計
入場費	68.0	295.6	0.0	62.2	0.0	38.6	464.4
交通費	28.2	11.4	17.9	9.8	5.2	2.9	75.4
飲食費	19.8	11.3	13.7	9.2	0.4	0.9	55.3
物販費	27.7	16.8	19.6	13.6	0.0	0.0	77.7
宿泊費	1.7	2.1	1.6	1.6	0.0	0.0	7.0
観光費	2.6	3.2	2.4	2.4	0.0	0.0	10.6
合計	148.0	340.4	55.2	98.8	5.6	42.4	690.4

